

令和7年度高病原性鳥インフルエンザ発生予防対策について

1 要旨・目的

令和6年度の国内発生状況及び本県の発生予防対策を振り返り、年度初めにおける令和7年度の本県の高病原性鳥インフルエンザ（以下、「鳥インフルエンザ」という。）発生予防対策について報告する。

2 現状・背景

令和6年度シーズンは、過去最も早い10月17日に国内1例目が確認され、最終的に14道県51事例、約932万羽の過去3番目に多い発生羽数となった。

一方、中国四国地方では、隣県の島根県、香川県及び愛媛県で発生したが、本県では、5年ぶりの未発生となった。

（1）令和6年度シーズンの国内発生の振り返り（国）

ア 養鶏農場の多い地域での連続発生

- ・令和7年1月に発生数が急増し、特に養鶏産地における連続発生が顕著であった。
- ・連続発生の一要因として、通報の遅れ、強風・乾燥等の気象条件が指摘された。

イ 過去に発生した地域や農場での再発生

- ・今シーズンの発生事例51事例のうち、9事例が再発事例であった。

ウ 国内野鳥や野生動物のウイルスの感染と農場への伝播

- ・国内の野鳥や野生動物を介したと思われる農場への侵入事例が認められた。

（2）令和6年度シーズンの本県での発生予防の取組

令和4年度の大規模農場・ウインドウレス鶏舎での発生、令和5年度の開放鶏舎での発生、令和2～4年度の水場近隣農場での発生を振り返り、ハード面に加え、ソフト面での対策を重要視するとともに、当該シーズンの国内発生の疫学分析・情報収集に基づく対策の強化並びに切れ目ない注意喚起を実施した。

ア 当初対策（４月～１０月：シーズン前）

- ・鶏舎入気口の点検・修繕
- ・野鳥（カラス等）対策（農場内の清掃（餌場の除去））
- ・ため池対策（野鳥忌避対策）
- ・農場自らの消毒計画の策定と励行確認・指導
- ・県作成動画研修会（４回・７ヵ国語）による衛生基本行動の従業員への浸透

イ 追加対策（１１月～１２月：例年より早い国内発生及び隣接県での発生対応）

- ・消石灰配布
- ・入気口のフィルター設置、開放鶏舎の不織布設置
- ・消石灰に加え、液体消毒液による埃の除去・消毒等
- ・年末年始の農場作業体制の点検（衛生水準・意識の低下防止）

ウ 強化対策（１月～２月：国内連続発生対応）

- ・農場責任者緊急会議による連続発生分析の共有
- ・従業員への動画研修会の再度の実施（衛生基本行動の再点検）
- ・県内農場防疫対策優良実例（消毒、野鳥対策等）の取りまとめ及び共有

エ 注意喚起（３月：国内未発生対応）

- ・渡り鳥の北帰行対応（ため池対策確認：飛来防止）
- ・野鳥対策確認（農場内清掃：飛来防止）
- ・衛生基本行動の再点検

３ 令和７年度シーズンの本県の取組

（１）上半期（４月～９月）

令和６年度の取組に加え、次の取組を実施

ア 県内発生農場の対策実例研修会の開催（５月１日）

（参加）

計 110 名（県内養鶏農場 41 名、市町・関係団体 18 名、県外 40 名、県 11 名）

（今後の実施内容）

- ・発生農場の対策実例から、自農場の令和６年度対策を振り返る。
- ・アンケート調査を通じて、農場の衛生的弱点を自ら認識する。

イ 農場経営体制の再点検

- ・飼養衛生管理基準の水準の確認
- ・従業員数や農場責任者の役割分担の時点確認

ウ 情報収集と課題整理

- ・鳥インフルエンザ防疫の最新情報（他県・世界）の収集
- ・防疫作業時のウイルス拡散防止対策の強化

（２）下半期（10月～3月）

令和6年度を取組を基本に、状況変化分析及び情報収集を重ね、先手対策を行う。

4 その他

令和6年10月31日に島根県における鳥インフルエンザの発生に伴い設定した県の当該警戒体制は、令和7年2月1日以降国内発生がないことから、警戒強化期間が終わる5月31日付け又は国が国内清浄化宣言をした日のどちらか早い日付で解除する予定。